

## 自己評価学校関係者評価

### 1. 教育方針

『あそび』を主体とした幼稚園生活からたくましく『生きる力』を育てる。

～幼児期にふさわしい生活の中で、あかるくのびやかに活動し、健康な体と豊かな心を育てる～

- ・つよいこ すこやかな体と、どんな困難も乗り越える強い意志を持てる子
- ・あかるいこ 誰とでも仲良く笑顔でのびのびと行動できる子
- ・やさしいこ 心が広くおもいやりのある子
- ・かしこいこ よく見てよく考え善悪の判断力をしっかり持てる子
- ・たくましいこ なにごとにも勇気を持って挑戦する子

### 2. 今年度の主な課題と取り組み

過去2年に亘るコロナ禍対策による保育・教育を見直し、出来る限り通常の教育、行事等を行えるよう前向きに検討、実施できた。また、質の高い教育を目指すべく、その第一歩として子どもの安全で遊びが充実できる『環境づくり』について職員間で協議検討を重ね、実践した。

【主に取り組んだ事柄】

- コロナ禍でもできる限り通常の教育・保育を行う工夫と配慮
- 園児を取り巻く『環境』を見直し、その整備による遊びの広がりへの種まき
- 危機管理を踏まえた園内環境、バス送迎マニュアル等の見直し
- 乳幼児の発達に関する研修会

### 3. 各項目の自己評価及び達成状況

評価項目	自己評価	取り組み・達成状況
I. 保育の計画性	B	様々な性格、特性の子ども達も安心して園生活をおくれるよう、環境や保育内容について配慮、工夫を繰り返すとともに、『子どもの興味関心』に基づいた計画を立てるよう無理のない柔軟な保育を心がけた。コロナ禍等の職員人員不足の為、計画通りに教育・保育が出来なかったことも多かったが協力的体制をしっかりととり、連携が出来ていた。
II. 保育の在り方・幼児への対応	A	コロナ禍でも、今年度はすべての行事を予定通りに行うことを目標とし、実現できた。昨年同様、コロナ禍によってか子ども達の体験不足や不安さ等が表れていた為、負担がかからないよう一人ひとりの発達を理解し、心に寄り添いながら保育を進めた。
III. 保育者としての能力や良識・適性	B	昨年度から継続の子どもと向き合う姿勢や言動等の保育教諭としての専門的な知識に加え、服装や言動、協力的体制等、基本的なマナー等についても、より質の高い保育者を目指せるよう確認し合った。
IV. 保護者への対応	A	年数回の個人懇談や参観日、電話や対面での話を通して園児の様子が報告出来るよう可能な限り情報を共有、信頼関係が築けるよう努めた。また、写真や映像、ブログ等を通して園の様子を積極的に発信するよう心掛けている。保護者からの意見は真摯に受け止め改善に心がけている。
V. 地域の自然や社会との関わり	B	コロナ禍も落ち着き、年 20 回ほどの園外教育もほぼ再開できたことで海や山、木や草花と触れ合う機会も増えた。保護者による『家庭教育学級』、園の施設を利用した『幼稚園開放』も積極的に行われた。スポーツ体験や音楽鑑賞で園の施設を利用する問い合わせも増えた。
VI. 研究と研修	A	乳児は子ども達が過ごしやすい『環境』について意見交換し環境を充実させることができた。幼児は次年度の『公開保育』に向けて職員間で『あそびと環境』について毎月研究を深めることができた。 また、様々な研修会を積極的に行うことで、保育に関する知識が深まった。

#### 4. 学校関係者評価

- ◇ 先生達の研究心が好ましい。保育をよくしていこうという前向きな気持ちが伝わる。
- ◇ 子ども一人ひとりの特性を理解し、その子に合わせた投げかけ方が出来ている。研修等を継続することで子どもを見る目が養われていると感じる。
- ◇ 職員が皆笑顔で子どもと接し、声掛けも丁寧で優しい。担任以外の職員も上手に子どもをサポートし、主担任との連携が出来ていると感じる。
- ◇ 学んだことやアドバイスを、どのように実践し、『栄光幼稚園』としての保育・教育に繋げていくかが次の課題である。

#### 5. 昨年度の課題への取り組み

##### 【支援の必要な子への関りについて(令和3年度からの継続)】

令和3年度の研修、研究を経て、今年度は、専門家に聞く前に先ず職員間で解決策を話し合い、努力してみた。それにより、『その子』により寄り添うことができた。環境が変わることへの事前の配慮、切り替えのタイミング等、それぞれに合わせて工夫してみた。今後も継続し、子ども達が安心して生活をおくれるよう相談、共通理解できる環境を整えていく。

##### 【危機管理について】

バス運行、保育士による不適切な接し方等についてニュースが入ったことを受け、本園でも危険箇所や死角、バス運行マニュアル、安全対策について様々な点から見直しを図り、危険がある場合は必ず情報共有し、原因を取り除いたり子ども達にも周知していくよう気を付けた。今後の課題として、ヒヤリ・ハツとで、事故の起きやすい場所、時間等より詳細を把握し改善に努めていきたい。

##### 【園の教育方針の共通理解】

令和5年度予定の公開保育準備の為、職員間で再度、園の教育方針やねらいについて共通理解することができた。今後も子ども達のがのびのび活動できる環境づくりに心がけていく。

##### 【乳幼児の発達理解と積極的な交流】

職員の理解と努力により、乳児と幼児の関りは年々増えているように感じている。乳幼児発達についての知識が全体的に足りていないので、今後も継続して乳幼児(特に乳児の発達)について学ぶ機会を設けていきたい。それにより、0歳から6歳までの一貫したカリキュラムを打ち出していく。

## 6. 今後の課題

- ・ICT化に向けて
- ・『環境』の充実
- ・地域との関り

## 7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる。